

令和6年度 施策事前評価シート

施策責任者所属	企画財政課	電話番号	直通	989-5504
基本目標	住みやすく働きやすい豊かなながいずみ			
政策	快適で便利なまちの実現	施策分野	公共交通	
施策分野の総事業費	前年度決算額	70,204 千円	今年度予算額	66,644 千円

施策の進捗状況

	成果指標名称	年度	現状値	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	単位	進捗評価
1	公共交通が充実していると思う町民の割合	目標値		18	22	26	28	30	%	A
		実績値	—	27.6	33.0	35.1				
2	コミュニティ交通の利用者数	目標値		42,500	45,000	47,500	49,000	50,000	人	E
		実績値	39,098	30,767	32,692	32,071				
3		目標値								
		実績値								
4		目標値								
		実績値								
総合評価							D：事業の見直しが必要			

事前分析

施策分野におけるこれまでの取り組みの概要	<p>コミュニティバス（南北線、循環線A、循環線B）の運行、民間乗合バス事業者への支援、デマンド乗合タクシー（ももタク）の運行、マイナンバーカードを活用したタクシー利用助成事業の実施、バスロケーションシステムの導入、コミュニティバスの路線再編（令和5年1月）</p>
施策分野における背景・環境及び抱えている課題	<ul style="list-style-type: none"> 住民意識調査の設問が、令和2年度は「全員」が対象であったが、令和3年度からは調査対象のうち公共交通を「利用している」または「ときどき利用している」と回答した方に限定して回答を求めた。 富士急シティバスが令和6年4月に大幅な減便を実施し、他の事業者も厳しい運行状況であるため、今後の町内路線バス網の縮小による町民の利便性の低下が危惧される。 コミュニティバスの利用者数はコロナ前の水準に戻らず、利用者減が生活様式の変化または運行形態の変更によるものなのか、早急にその原因を探る必要がある。 居住地、年齢層により求めている公共交通ニーズが異なることから、より多くの町民から高い満足度を得ることができる公共交通システムの構築が求められる。 マイナンバーカードを利用したタクシー助成事業の利用者は右肩上がりが増えていますが、タクシー協会の受け入れ体制の維持については課題がある。
施策分野における改革・改善内容及び今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 交通事業者と連携し、より利用しやすい公共交通の導入に向けた施策を展開する。 コロナ禍で中止・縮小していた各種イベント等が開催されているため、より多くのイベントに出向き広く町民等への公共交通の利用をアピールする。 シニアクラブの各地区での集まり等の場に積極的に参加し、公共交通の利用のアピールに加え、現在のニーズを直接聞く。 コミュニティバスのOD調査やヒアリング、アンケート等を実施し、令和6年度中に今後の方向性を検討する。